

博士学位論文審査結果の概要

ふりがな	なかた ひろこ
氏名	中田 弘子
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	甲第 号
学位授与年月日	平成23年 3月13日
学位論文題目	長期臥床患者の拘縮手の清潔ケアに関する研究
審査委員	主査 石川県立看護大学 教授 高山成子
	副査 石川県立看護大学 教授 川島和代
	副査 石川県立看護大学 教授 多久和典子
	副査 石川県立看護大学 教授 村井嘉子

審査結果の概要

平成23年1月20日に審査及び最終試験を行った。本研究の概要と審査結果は以下の通りである。本研究は、脳血管障害の後遺症である痙性麻痺によって生じる拘縮手の清潔ケアに関する研究である。本論文は、第1章・療養型病棟における清潔ケアの実態調査、第2章・拘縮手に標準的に使用されているハンドロールの種類別効果の検証、第3章・手浴用ベースンの開発と臨床適用で構成されている。各章の内容はすべて学術雑誌に掲載されており、研究方法及び成果に対して一定の評価が与えられている。

論文は、研究の枠組みの説明の序文に始まり、1章では療養型病棟の清潔ケアの実態として「入浴回数は週2回が7割」「ハンドロールは全病棟で使用されているが種別は多様」「拘縮手の手浴の問題として、洗い(拭き)にくい、拘縮手にあうものがない」などの結果が示された。それらの結果に基づいて2章、3章が展開されている。2章ではハンドロールの種類ごとに着用後の手指汚染度、臭度を比較し、指股型ハンドロールにおいて汚染防止、防臭効果が高いとの結果を示した。3章では、看護師のインタビュー分析から手浴用ベースン使用上の困難を明らかにし、その困難性に基づき開発した新型ベースンの説明を行っている。そして、新型ベースンの臨床での実用性評価を行い60%の肯定的評価を得たとの結果を示している。

本研究は、脳血管障害後長期臥床による拘縮手について専門知識に裏付けされた看護の視点から清潔維持・改善に取り組んでいる点、頻回に手浴する為のベースンの工夫だけでなくそれ以外の時間の清潔も視野に入れた全体の枠組みのもとで緻密な研究を重ねている点、常に現場の実態調査に基づいて段階的に研究を推し進めている点が高く評価できる。結果として示された「適切なハンドロール選択のためのエビデンスの提供」と「利便性の高い手浴用ベースンの開発と評価」は、看護の現場の清潔ケア質向上に有益な結果を提供できたと考える。

口頭試問に於いては、脳血管疾患、拘縮手、評価方法などについて専門的知識を有していることを確認して、審査委員4名全員が、看護学博士論文として妥当で、高く評価できると一致した。但し、3章全体の論文の概念枠組みの論理的な説明と用語の定義に不足な部分があること、図などについて再考、加筆、修正を求めた。2月7日に再提出後、審査委員全員が修正を確認して、本審査及び最終試験に合格したと判断した。